

第31回 慶應義塾大学病院医師主導治験審査委員会 会議の記録の概要

日時：2023年8月28日（月） 14時00分-14時55分

場所：慶應義塾大学病院2号館11階 中会議室 および Web会議（使用システム：Zoom）

委員出席者 委員長 神山 圭介（臨床研究監理センター教授）

副委員長 浜本 康夫（腫瘍センター准教授）

森崎 浩（麻酔学教授／麻酔科診療科部長）

許斐 健二（臨床研究推進センター教授）

三浦 公嗣（藤田医科大学特命教授）

竹下 啓（東海大学医学部基盤診療学系医療倫理学領域教授）

唐澤 貴夫（弁護士）

有馬 齊（横浜市立大学国際教養学部准教授）

天野 慎介（一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン）

馬上 祐子（小児脳腫瘍の会）

福島 慎吾（認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク）

委員欠席者 青森 達（副薬剤部長）

矢田部 菜穂子（弁護士）

病院治験事務局出席者 別府 紀子、池谷 修、杉山 真智子、三田 真凜

出欠を確認し、各審議に参加できない委員を考慮した上で、本委員会の審議及び採決の要件が満たされていることを確認した。

森崎委員、許斐委員、三浦委員、竹下委員、唐澤委員、有馬委員、馬上委員、天野委員はWeb会議システムでの参加となった。

1. 臨床研究利益相反マネジメント委員会にて、今回の医師主導治験審査委員会の審査事項に係る利益相反に関する報告はなかったことが報告された。
2. 神山委員長より、第30回医師主導治験審査委員会議事録（案）について、意見の有無を確認したところ、三浦委員よりWeb会議システム（Zoom）のチャット機能を利用して、委員の肩書の誤記について指摘があり（許斐委員・誤：臨床研究推進センター特任准教授→正：臨床研究推進センター教授、三浦委員・誤：臨床研究推進センター特任教授→正：藤田医科大学特命教授）、修正の上で承認した。

3. 審査事項

3-1. 安全性情報

1) DA22-001

「相同組換え修復遺伝子変異を有する切除不能な進行・再発の固形がん患者に対する Niraparib および PD-1 阻害剤併用療法の有効性および安全性を評価する多施設共同第 II 相バスケット試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

2) DA22-004

「血中循環腫瘍 DNA 陽性の腫瘍減量術後進行卵巣がん患者を対象としてベバシズマブ+ニラパリブ併用療法とニラパリブ単剤維持療法を比較する無作為化第 II 相試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

3) DA22-005

「上皮系皮膚悪性腫瘍に対する抗 PD-1 抗体療法の医師主導による多施設共同拡大治験」

審議の結果、「承認」と判定した。

4) DA22-006

「HRD 陽性再発・難治性婦人科希少がんに対する Niraparib の安全性・有効性を評価する単群・非盲検第 II 相試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

3-2. 変更申請

1) DA21-001

「HER2 陽性の進行期乳房外パジェット病に対するトラスツズマブ エムタンシン治療の第 II 相臨床試験（多施設共同医師主導治験）」

審議の結果、「承認」と判定した。

2) DA22-002

「副腎皮質ステロイドに抵抗性の成人発症スチル病（AOSD）患者に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム（5-ALA-HC1/SFC）の第II相医師主導、ランダム化二重盲検並行群間比較試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

3) DA22-003

「副腎皮質ステロイドに抵抗性の成人発症スチル病（AOSD）患者に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム（5-ALA-HC1/SFC）の第II相医師主導、継続投与試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

4) DA22-004

「血中循環腫瘍DNA陽性の腫瘍減量術後進行卵巣がん患者を対象としてベバシズマブ+ニラバリブ併用療法とニラバリブ単剤維持療法を比較する無作為化第II相試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

3-3 モニタリング報告

1) DA21-004

「腰椎椎間板ヘルニア患者に対するKTP-001の臨床第I/IIa相試験」

審議の結果、「承認」と判定した。

2) DA22-005

「上皮系皮膚悪性腫瘍に対する抗PD-1抗体療法の医師主導による多施設共同拡大治験」

審議の結果、「承認」と判定した。

4. その他

4-1. 事務局より、7月審議事項DA22-006試験「安全性情報」の「審査対象外」資料について報告された。

4-2. 事務局より、DA22-001メモランダムの運用に関する治験実施計画書等への記載について報告された。

4-3. 今後の新規予定について

来月の新規予定、また今後の新規予定は現時点ではなく、継続審査が中心になることが報告された。

4-4. 電磁化システムについて

時間の都合上、次月情報共有されることとなった。

以上